

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400014		
法人名	矢崎総業株式会社		
事業所名	ヤザキケアセンター紙ふうせん		
所在地	〒410-1194 静岡県裾野市御宿1500番地		
自己評価作成日	令和3年 1月 19日	評価結果市町村受理日	令和3年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は矢崎総業の敷地内にあり、広大な自然の中に建っています。大きな窓からは、雄大な富士山を見ることができ、多種類の桜、銀杏、栗など、四季の自然を感じながら、安全に散歩することができます。ベランダでの花作り、庭ではウサギと触れ合い、池の鯉にエサやりもしています。 全国の郷土料理が出たり、畑で収穫した野菜と一緒に調理し、時間を気にせず食べる事で、食べる楽しみを提供しています。 企業全体での自治区になっている為、防災やお祭りなど行事に参加しています。敷地内の矢崎保育園児との交流で自然な笑顔も見られます。職員にスリランカからの技能実習生を受け入れており、これからの介護施設としての役割を、地域社会と共にグローバルな視点で進めている事業所です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「地域の方から必要とされる事業所でありつづける」の理念の基、開所15年目を迎えた。母体である矢崎総業の広大な敷地は、自治区となっており、季節ごとに色づく草花や雄大な富士山が、施設の窓からも眺められる。庭には、園芸スペースやウサギと触れ合える場があり、散歩や活動を楽しめる。今年度は、新たなチーム体制となり、前回評価から1年という短期間で、様々な見直しが行われた。「誰のために、何を行うか」に立ち返り、事業所目標の設定・業務手続・記録様式の変更・委員会の活用・研修方法の見直し等を行った。管理者を中心に、課題に真摯に取り組む事で、サービスの質が向上しただけでなく、チームとしても成長する事が出来ている。調査中に語られる様々なエピソードからは、努力だけでなく、職員も楽しみながら取り組んでいる姿勢が伺えた。今後の発展に期待ができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の方から必要とされる事業所でありつづける」を理念のもと、スタッフで作成した「人を大切にしたいに寄り添い安心して自分らしい生活を共にします」という目標で毎日の支援に取り組んでいます。	事業所理念を基に、今年度は職員が目標設定を行っている。年次目標は、スタッフルーム入口に掲示し、会議で毎回確認している。目標にあるように職員は「人を大切にしたい」という思いを持ち、言語化する事で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	矢崎自治区での防災訓練やお祭りへ参加したり、敷地内の矢崎保育園との交流もあります。運営推進会議では災害や緊急時との連携を計画的に進めています。昨年の4月以降、感染症の予防として、行事・交流は見合わせています。	例年は、地域の行事やRUN伴等に参加し、交流を持つ機会があるが、感染対策の為中止となった。その中で、市の高齢者施設芸術祭は開催され、参加する事が出来た。来年度は、保育所や児童館との交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生の職場体験、矢崎総業の新入社員研修の受け入れ、紙ふうせん内で行うサロンに参加する地域の方と交流をし、認知症の正しい知識と対応を伝えています。昨年の4月以降、感染症の予防として、サロンの中止・実習の受け入れを見合わせています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催をし、ご利用者本人、ご家族、区長、自治会長、民生委員、包括の代表の皆様と話し合いの機会を設けサービスの向上に努めています。(感染症対策の為、10月のみ開催できました)	コロナ禍の中、10月には久しぶりに会議を行う事ができた。現在は、感染状況を考慮しながら、書面を通じて行っている。会議では、家族よりケアに関する要望もあった。意見は、職員間で共有し改善に努めている。積み上げるように関係を深め、参加者と率直な意見交換が出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括主催の地域調整会議、市や社協主催のイベント等、施設を知っていただけるよう参加をしています。施設内の防災訓練実施の際、市役所職員に見学・講評をして頂き協力関係を築いています。介護認定更新手続きの代行をし、事務手続きが滞らないように協力をしています。	11月に行った防災訓練には、市の担当者や災害対策課の職員が参加した。また、キャラバンメイト等の活動を通じて定期的に意見交換する事が出来ている。担当者とも数年にわたる関りがあり、相談のしやすい環境が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束「0」宣言をし、ポスターを玄関ホールに掲示しています。講師を招いて施設内での研修や、オンラインでの研修に取り組んでいます。	外部サービスを活用した、オンライン研修を開催している。研修内容を正しく理解出来るよう、管理者が補足し職員に指導している。また、毎月委員会でケア場面の課題について話し合い、振り返る機会を作っている。議事録は回覧され、全体に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンラインでの研修に参加し、その内容を内部研修へ反映させることにより、職員全体に「虐待」について学びを深める体制作りを努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてはオンライン研修等に学び、職員全体にはフィードバックとして内部研修を行っています。現在利用されている方はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みから契約に至るまでの間、必要であれば複数回ご家族やご本人と面談を行い、疑問や不安が解消されるよう十分に話し合いや説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人、ご家族を交えた担当者会議を定期的開催しています。運営推進委員会にも参加していただき意見を伺う機会を設けています。(市の介護相談員に定期的に関わり取りにきていただいています…感染症の予防として見合わせ中)	日頃の会話から、思いを聞きとりケアに反映させている。感染対策に伴い、面会制限をしている中、家族の声が聞きたいと願う利用者も多かった。手紙や電話、メッセージ動画等のツールを活用し、日頃の様子を伝えた。本人や家族の思いを代弁し、安心感に繋がるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の送りやカンファレンスで出た職員の意見は、運営側へ提案をしています。QC活動にも取り組み業務改善の意見を出せる仕組みがあります(報奨金あり)	業務改善に関する意見に対して、報奨金制度が整備されている。管理者は、職員の表情やしぐさを見ながら思いを汲み取り、意見が出しやすいよう働きかけている。最近では、会議の場以外でも意見交換を行う事が増えてきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の評価を実施、評価面談と契約更新面談をすることで、現状確認や今後の働きたいスタイル、思い等をヒアリングし、改善できる所は改善し、働きやすい環境を整備しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修に毎年1人ずつ参加し、スキルアップしています。外部研修、オンライン研修を活用しスキルアップしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	優良事業所表彰を受けたことで、近隣グループホームとの関係性の構築しています。また、開設者研修の現場実習を近隣グループホームに依頼し交流を持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談をして要望を伺い、言葉からの訴えだけでなく、表情や言葉の奥にある不安や本当の気持ちに寄り添えるように努めています。要望を職員間で共有し、できる限り実現できるように取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から密に連絡を取り合い、意見や要望を伺うようにしています。入居の翌日には様子の報告をしています。ご家族の不安や思いを相談していただけるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、すぐはこちらのサービスが提供できない場合は、他のサービスを含めた支援のご案内を説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の残存機能を、職員同士で情報を共有し、洗い物・掃除等出来ることは行っていたいています。一緒に家事を行う事で会話も増え昔の知恵も教わっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な担当者会議への参加、面会時などに意向を伺い、ご家族の協力が必要であることを伝えています。ご家族の生活状況も踏まえ、一緒に支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普通だったデイサービスや、地域の方が参加するサロンへ出向いたり、馴染みのお店に買い物に出かけています。感染症対策後は連絡をいただき、ガラス越しに面会を行っています。	職員は、個々の習慣を大切にしたいと考えており、手紙のやり取りや馴染みの店・散歩コースへの外出を行っている。家族や友人と会える機会も、面会方法を工夫する事で継続している。また、施設の中に、利用者が懐かしさを感じられる環境を作りたいと考え、準備をしている所である。	利用者の時代背景を踏まえ、昭和40年代を想起させる空間作りを企画している。今後、職員の自由な発想を活かしながら、利用者の行動が広がるような環境が作られていく事を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が快適な関係を築けるように関係性を把握し、座席の位置を検討しています。必要な時には間に入り会話を取り持っています。関係性を築きにくい方は職員が良い環境になれるように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療ニーズが高くなって利用が終了した後も入院、転院、退院、入所といった変化に対応し家族、医療機関と連絡をとりあい相談、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話・表情から思いや意向をくみ取り、記録に残しています。 担当者会議を定期的に行い、「やりたいことシート」を一緒に記入して思いを共有し、ケアプランに反映しています。	今年度より独自に「やりたい事シート」を作成し、ケアプランに反映させた。シートは、フレーズや写真を使い、認知機能の低下した利用者でも回答しやすいように工夫されている。また、日常記録様式の見直しを行った事で、具体的な検討が行えるようになった。	独自シート作成は、利用者の立場に立ち考えられています。ツールを工夫する事で新たな要望を引き出す事ができ、生活の幅も広がっています。今後も精度をあげながら、活用されていく事を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、担当ケアマネから情報収集をし、ご家族には「生活史」を渡し記入して頂いています。 ご本人からも、昔のお話を伺いこれからの暮らし方を話し合っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が心身の状況と細かな変化に気付けるように記録を残し、毎日の申し送りを行っています。 変化がある時は、毎月のカンファレンスで話し合い、情報の把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な担当者会議を、利用者様、ご家族、看護師を含めて話し合っています。 必要に応じて、医師や理学療法士のアドバイスをもらい、介護計画書を作成しています。	記録の活用を行う事で、具体的な生活課題や目標を利用者と共有できるようになった。また、併設事業所の専門職と連携しながら、適正な福祉用具の選定や評価も実施できている。事業所の強みを活かしたマネジメントが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を個別の介護記録、申し送りノート、業務日誌へ記載し、申し送りにて情報の共有を行っています。 定期的にモニタリングを行い計画書に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態をグループホームの職員だけでなく他部署や多職種の力を借りてニーズに反映することができるよう努めています。 受診同行が困難な家族に対しては、職員が付き添いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社内や一般ボランティアを受け入れ、利用者様の生活に潤いがあるように支援を行っています。 地域のイベントにも積極的に参加をし、施設を知ってもらう様に務めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を継続しています。 訪問診療のある医師には事前に様子を連絡して、当日スムーズに診察ができる様にしています 受診に行く時は、様子を記入した受診票を持参し、確実にご様子を伝え連携を取っています。	現在、5つの医療機関と連携を持つことで、個々が希望する診療を受けることが出来ている。緊急時には、主治医に直接相談する事も可能である。家族が付き添い受診をする際は、報告書を作成している。訪問看護職員も交え、協力体制が作られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、施設内の訪問看護を受けています。 日々の変化の相談、アドバイスを受けて、24時間の緊急対応の連携もとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	入院時は医療機関へ入居中の様子や薬の情報を提供しています。 ご家族、病院の相談員、看護師や担当医との面談・カンファレンスを行い情報交換と関係作りにも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方について説明を行っています。 急変時や重度化した場合の対応の説明を同意を得ています。看取りについても説明を行い、希望がある場合は「看取り同意書」を交わしています。	看取り指針は、入居時に説明を行っている。今年度は、新たにパンフレットを作成した。パンフレットは、初めての看取りに困惑する家族の心情を考慮して作成されている。終末期ケアを実施する際は、本人を交えて話し合い、思いをチームで共有する事を大切にしている。緊急時の対応は、フローチャート化しており、全体で周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置、普通・上級救命講習を職員全員が受けています。 緊急時の対応については手順書を作成して、冷静に対応できるように訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の全体訓練や、毎月の防災訓練を行い、緊急時に対応できるようにしています。 矢崎自治会・矢崎独身寮や警備会社との連携もとれるように、運営推進会議で確認をし協力体制を構築しています。	自治区全体と施設単位で年2回実施している。今年度は、反復した避難行動を実践するため新たに月1回の避難訓練を行った。併設事業所の職員の応援体制があり、1対1の配置がされている。また、事業所の車両は、災害時の緊急車両として登録している。備蓄も企業全体で整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の先輩であり敬いの気持ちを忘れず支援しています。 入浴や更衣、排泄時は特に注意をはらい、声掛けにも配慮をしています。 適切でない対応が見られた場合は、カンファレンスや上司が個別に指導を行っています。	利用者のプライバシーに配慮し、浴室・トイレに暖簾を設置した。誘導の際は、常に視線を意識して対応している。全体で、職員の言葉遣いが適切であるか振り返り、必要に応じて話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中や行動からご本人の気持ちを汲み取り、寄り添えるような環境づくりをしています。 自己決定できるように声掛けの工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はありますが、無理強いせず一人ひとりの意向や体調に合わせ、落ち着ける場所で好きなように過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と連携をとり季節の衣替えを本人と共に行います。朝の更衣や着替えを本人に選んでもいただけるよう支援しています。また不足分は、買い物に外出支援を行い、ご本人に選んでもいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は厨房にて管理栄養士による食事が用意されています。 会話の中で出てくる好みや食材を給食会議で提案し、食べる楽しみに繋がるように支援しています。畑の収穫物を調理したり、季節のおやつ作りをしています。 準備や片付けなど出来ることは一緒に行っています。	食事は、厨房で用意されているが、献立には利用者の意見を反映させている。月1回の郷土料理等も、写真を見ながら利用者と選択している。 リクエストに応じて、きりたんぼ鍋等、手作りメニューで、調理の機会を作っている。また、個々に合わせた食形態を見直し、改善した事例もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士がメニューを考え、利用者様に合わせた食事形態で提供しています。 食事量や水分は個人記録にて記入・確認をしています。食事量の少ない方は、主治医と連携をとり、経腸栄養剤を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし、習慣化しています。清潔が保たれているか観察し、必要であれば介助をおこないます。 歯科衛生士の訪問診療や歯科医に往診をお願いできる体制作りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるように努めています。ご本人の意思を大切に、動作の見守りし、必要に応じた声掛けを行っています。	排泄チェック表や日常記録を踏まえて、アセスメントを行っている。入居時は、リハビリパンツを使用していた利用者が環境が整い、改善された事例がある。使用するパットも適宜見直し、個々に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日2回の体操や散歩を兼ねた歩行をし、自然な排便が行えるように取り組んでいます。便秘気味の方には、水分を多く提供したり、主治医・看護師と相談し、服薬でコントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週間予定表を作成し、週3回は入浴できるようにしていますが、ご本人の体調や意思に合わせて、柔軟に対応しています。入る順番は、朝、ご本人に希望を伺っています。冬至の時はゆずを浮かべ季節を演出しています。	基本的に週3回入浴できるよう支援している。体調や状況に応じて時間を変更する等、柔軟な対応が可能である。使用している湯は、太陽熱を利用しており、軟らかい質感である。季節に合わせて、ゆずを浮かべる事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて、起床・入眠・静養しています。安心して眠れるように、ご自宅で使用していた布団等を使用しています。定期的にはリネン交換をし、布団を干し清潔の保持をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をファイルにまとめ、いつでも確認することができます。薬はケースにて管理し、服薬の際には、飲み込むまで確認をしています。症状の変化がある時は、主治医に連絡をし、指示をうけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を踏まえ、個々の力にあった家事や手作業、レクリエーションを行っています。ドリンクメニュー表があり、その中から飲みたい物を選んでいきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩や買い物、ドライブに出かけます。会話の中でやりたい事、行きたい所の希望を把握し、ご家族よりお預かりしている預り金を持参し、地域の馴染みの店に行き、自ら支払いをしています。	前回の評価を踏まえて、外出の頻度を見直した。感染対策を取りながら、近隣への外出や外気浴の機会を設けている。介護職員だけでなく訪問介護職員も協力し、個別に散歩を行う等、継続する為の仕組みを作っている。また、外出する為の業務手続を簡略化し、企画しやすい環境を整えた。改善した事で、職員も積極的に散歩に出掛けることが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	敷地内の自販機での買い物や、外出支援のさい、個人の財布を用意して、ご自身でお金を払う事が出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などの要望があれば職員が仲介し連絡をおこなっています。家族からのお手紙や年賀状などやり取りを行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作った季節ごとの作品を飾ったり、「思い出写真館」と題し写真を飾り、立ち寄り所となっています。天気により照明の明るさを調整したり、温度・湿度の管理を行い、落ち着ける空間作りをしています。プライバシーが確保できるように、トイレにのれんを掛け配慮しています。	利用者が思い思いに過ごせるよう、共有スペースには家具が配置されている。ソファで横になり、くつろぐ様子も見られた。フロアの一角には「思い出写真館」のコーナーがあり、利用者と共に飾りつけを行っている。また、室温や湿度管理を行う為、新たにエアコンを設置した。体温調整の困難な利用者にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士に自然になれるような、配席作りをしています。 フロアの所々に椅子を置き、独りになりたい時は別の場所でくつろいでいただけるような居場所作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や家族の写真等を持参したり、ご本人と相談しながらベッドの向きや家具の配置を決めています。 ご自身の部屋である意識を持っていただく為、入口の表札と一緒に作っています。	馴染みの家具や装飾品の持ち込みが可能であり、入居時にも勧めている。各居室には名前がつけられており、名前の入った暖簾や表札がある。表札の書体等は、利用者と相談して決めている。過去に作った作品を、居室だけでなく廊下に展示する等、心地よさを考えた取り組みがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の表札、避難場所の表示などをつけ、場所が分かるようにしています。 安全に配慮しながら出来ることは出来ることはご自分でを行っています。		